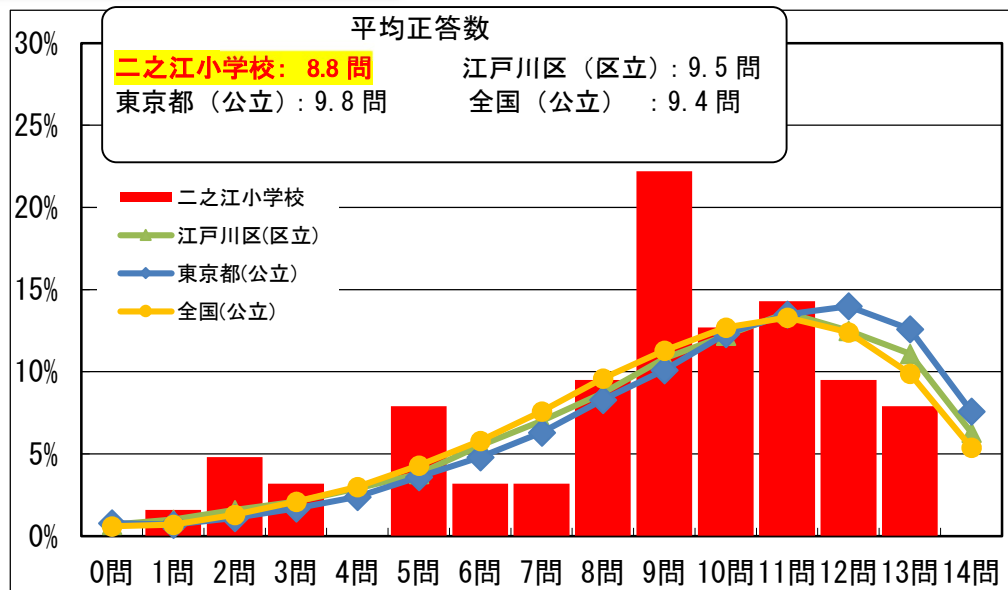


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】二之江小学校

正 答 数 分 布



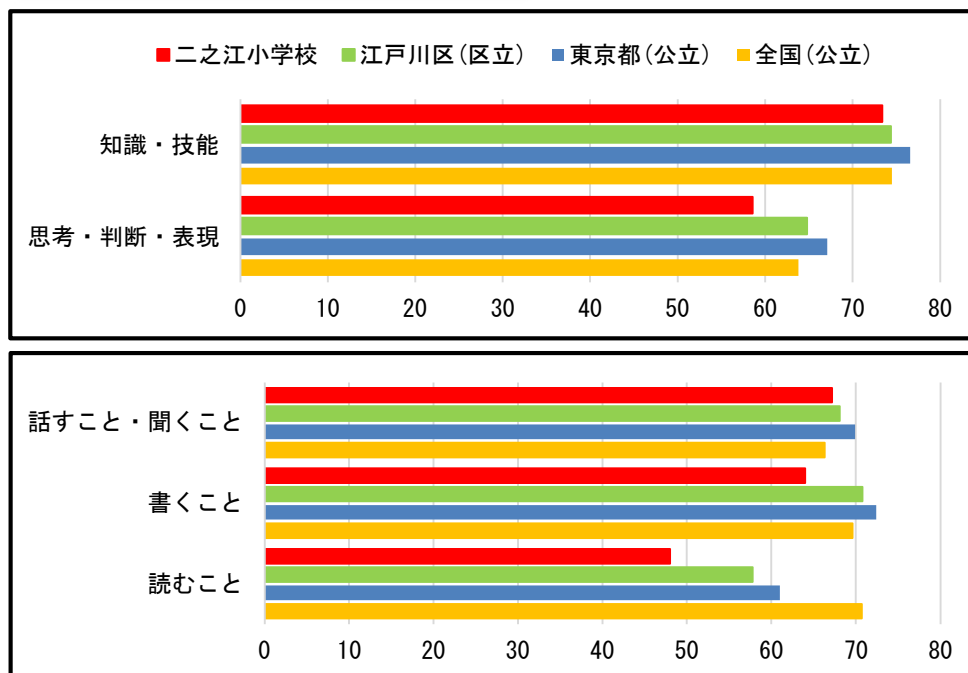
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国 語	A層 12~14 問	B層 10~11 問	C層 8~9 問	D層 0~7 問
二之江小学校	7.9	23.8	34.9	33.4
江戸川区(区立)	30.3	25.8	10.5	24.7
東京都(公立)	34.4	25.8	18.4	21.4
全国(公立)	27.7	26.0	20.9	25.4

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

二之江小学校	63.0%
江戸川区(区立)	68.0%
東京都(公立)	70.0%
全国(公立)	66.8%
都との差	-7ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

【分析結果と授業改善に向けて】

本校の平均正答率が63.0%(全国66.8%,都70.0%)であった。平均正答率の東京都との差が-7ポイントである。「話すこと・聞くこと」の領域の本校の平均正答率が67.2%(全国66.3%,都69.9%)で、都との差は-2.7%であった。「話すこと・聞くこと」の領域では東京都の平均正答率とほぼ同じであった。一方、「読むこと」の領域の本校の平均正答率が48.0%(全国57.5%,都61.0%)で都との差が-13ポイントと低い数値であった。授業改善に向けて、国語科の授業では、「読むこと」の力を高めるために、授業で扱う文章を辞書で調べるなどして語彙を増やしたり、根拠をもとに自分の考えを述べたりする学習を継続的に取り組む必要がある。また、各教科において資料の読み取りや「よむYOMUワークシート」の取組を活用しながら様々な種類の文章に触れ、読解力を高めるための取組を意図的に取り入れていくようにする。